# 令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 島 小学校 ）　　学校番号　０７３

【様式】

| | |
|---|---|
| 目指す学校像 | 児童の豊かな心を培い、夢や希望を育む学校　　教職員が持ち味を生かし、授業や教育活動を創り出していく学校<br>家庭や地域社会と共に歩み、協働し合う開かれた学校 |
| 重点目標 | １ 学びを自律化し、基礎・基本の徹底と情報端末の活用を両立した個別最適な学習を実現する<br>２ 安心・安全な学校に向け教育支援・相談体制を充実させ、豊かな人間関係を作ることができる学校を実現する<br>３ コミュニティ・スクールとして成長し、保護者・地域と連携した学校教育を実現する<br>４ 一人ひとりの教職員が力を発揮し、ライフステージにあった成長ができるよう、働き甲斐のある職場を作る |

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 | | | 実施日令和５年２月２０日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 〈現状〉<br>○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。<br>○市の学習状況調査では学習に対する関心・意欲・態度に関して肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べやや高い。<br>○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションしたりすることに 意欲的に取り組む児童が多い。<br>〈課題〉<br>○一部ではあるが学習意欲が低かったり、基礎・基本の力が十分でなかったりするい児童がいる。<br>○各教科において読解力を向上することで、子ども達の能力をさらに伸ばすことができると考えられる。 | ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、 基礎基本の徹底 | ①国語、算数について、スタディサプリやドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を行い、児童が目標をもって学習できるようにする。<br>②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、読解力に関する状況を分析するとともに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受け、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の読解力向上を図る。 | ① 日頃の授業の様子やまとめのテストの結果から、各教科の基礎・基本を習得できたか。<br>② 学校評価の児童の調査結果(進んで学習している)が昨年度と同等以上。<br>③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、読解力に関する問題について、正答率を８０％以上とすることができたか。 | ・学校評価において、学力・学習の項目「進んで学習に取り組んでいる」（児童回答）の肯定的な回答の割合は９割程度で昨年度と同等であった。 | B | ・本校独自の「家庭学習のすすめ」が定着し、家庭と携して積極的に学習に取り組める児童が増えている。<br>・管理職による授業参観により、どの学級においても学級規律が守られ大方の児童が集中して学習に取り組むことができている姿が見られている。しかし、学年によって数人程度、集中力が維持できない児童が見られるため、個別指導や ICT の活用等、個に応じた指導法をさらに進めることが必要と考える。 | ・児童の学力について昨年度との比較のみならず、ここ数年毎年調査を受ける児童が変わるにもかかわらず、ほぼ同じ水準を保っていることは、島小学校の指導の賜物と感じている。<br>・本日の授業参観でも感じたが、どの学年でも児童集中して授業に臨んでいるのがよい。一人１台 PC も自然に活用しているのがよく伝わってきた。今後も子ども達の学力をつけていってほしい。 |
| | | ・学びを自律化し、個別最適な学習や探求的な学習の充実 | ①各教員がタブレットを使った個別最適な学習や探求的な学習を目指して授業を行う。<br>②児童が自分の考えを表現する際、オクリンクやムーブノート等を積極的に活用させる。 | ① 国や市の学力・学習状況調査の児童の調査結果が国や市の平均以上であったか。<br>②よい授業の因子４が昨年度(17.0)と同等以上であったか。 | ・全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科において全国・県平均とほぼ同様の結果であった。 | B | ・全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科において全国・県平均とほぼ同様の結果であった。次年度に向けて、無答率を下げ、各教科の傾向を分析し、指導に活かしていく。 | |
| 2 | 〈現状〉<br>○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、平均を上回った。<br>○昨年度、休日に校庭の施設から落ち、頭を打って数日休んだ児童が１名いた。<br>〈課題〉<br>○コロナ禍によるストレスや先行きの不透明感等が、児童の心身に与える影響が心配される。心と生活のアンケートの結果に対しての適切な対応が求められる。<br>○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが重要である。 | ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制を充実させ、安心・安全な学校をつくる | ①教育相談体制を整え、いじめの防止や早期発見を組織的に取り組む。<br>②教育支援・相談に係る校内委員会でＩＣＴを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 | ①学校評価の児童の調査結果(困ったときに相談できる先生がいる)が昨年度(86.2%)と同等以上であったか。<br>②学校自己評価に係る児童・保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。 | ・学校評価において、児童と向き合う時間の確保の項目「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」（児童回答）の肯定的な回答の割合は 92%で、昨年度と同等以上であった。<br>・学校評価において、教育相談に係る項目においては、児童・保護者とも肯定的な回答の割合は 80%程度以上であった。 | B | ・学校評価における、関連質問の児童の肯定的回答割合は 92%と約６ポイント上がった。引き続き、働き方改革を進め教員の児童に関わる時間を増やしていく。<br>・反面、保護者の肯定的回答割合は 81%と目標は超えているが、児童回答と差があるため、保護者への周知が今後の課題となる。 | ・「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで児童の肯定的な回答が９０％を超えているのは、とても高い数値だとかんじている。<br>・保護者の肯定的回答も同等に上がっていくよう、ぜひ周知に努めてほしい。運営協議会でできることがあったら協力は惜しまない。 |
| | | ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた学校行事の充実 | ①交通安全教室や避難訓練等を通して、児童に自らの安全を確保する技術を育成する。<br>②課題の解決策について議論する「島小安全会議」を児童委員会中心で開催する。その中で安全な生活の実現に向けた目標を児童自ら設定する。 | ①学校評価に係る児童アンケートの「以前より安全を考えて行動するようになった。」と回答する児童の割合が８０％以上となったか。<br>②「島小安全会議」を開催し、児童が安全な生活の実現に向けて目標を設定し、けがの件数が減少したか。 | ・学校評価において、地域と連携した学校安全に係る項目の肯定的な回答の割合は、80%以上であった。 | A | ・学校評価における、関連質問の児童の肯定的回答割合は 85%と、多くの児童が安全を意識し行動できていると考える。けがについても減少してきているため、引き続き安全指導を継続していく。 | |
| 3 | 〈現状〉<br>○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。<br>〈課題〉<br>○今年度は、昨年度に学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。 | ・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのＩＣＴ活用、教育活動公開 | ①本校ＨＰ内に、新たに学校運営協議会及びＳＳＮの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。<br>②学校行事等について、学校関係者がオンラインで参観できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。 | ①全国学力・学習状況調査の生活に関する質問において、「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合を、80%以上となったか。<br>②同じく「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の肯定的な回答の割合を 80%以上となったか。 | ・全国学力・学習状況調査の生活に関する質問において、「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合は、50%程度であった。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の肯定的な回答の割合は、60%程度であった。 | D | ・コロナ禍の影響についての見通しが甘く、想定以上に地域との関わりの機会が得られなかったため、指標の数値に大きく届かなかった。次年度目標修正するとともに、様々な行事等が再開した際の関わり方について児童に伝えていく。 | ・指標としている「今住んでいる地域の行事に参加している」については目標数値に届かなかったとのことであるが、現状の社会情勢の中でこの数値は高い方だと考えるため、Ｄの評価は違うと思う。島小学校の児童は、地域や学校の行事をとても楽しみにしている。学校同様、地域としても１日も早く以前のような活気ある地域に戻ることを望んでいる。 |
| | | ・家庭や地域と協力体制を作り、児童の自律につながる継続的な取組に向けたプラン策定 | ①学習状況調査の結果分析等の客観的データを用い、児童の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るためのプランを策定する。<br>②学校運営協議会を年に２回以上開き、毎回参加者全員から意見をいただき、保護者・地域と連携を進める。 | ①学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの取組により、児童に自尊意識が育っている。」等、児童の自律について肯定的な回答をする割合が高まっていったか。<br>②学校自己評価に係るアンケートで、「学校、家庭、地域が協働し、児童の自律につながる取組が行われている。」と回答する割合が８０％以上となったか。 | ・全国学力・学習状況調査の生活に関する質問において、「自分にはよいところがある」の肯定的な回答の割合は 90%程度であった。<br>・学校評価において、あいさつに係る項目の肯定的な回答の割合は、児童・保護者ともに肯定的な回答は、80%以上であった。 | A | ・指標①、②ともに目標としていた数値を達成する結果を得ることができた。特に児童の自尊意識をもつことについては高い状態を保つことができているため、取り組みを継続していく。 | |
| 4 | 〈現状〉<br>○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたＩＣＴの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。<br>○６年生での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができている。<br>〈課題〉<br>○ＩＣＴの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。<br>○自分が担当しない教科について教材研究することや、よい授業のイメージを共有することが課題である。 | ・「さいたま市 GIGA スクール構想」を推進するためにエバンジェリスト等と研修会や打合せを充実させる<br>・教科担任制の実践及び研究 | ① 「さいたま市 GIGA スクール構 想」を推進するために、エバン ジェリスト等と研修会や打合せ を月に一回以上開催する。<br>②他校からよりよい教科担任制の情報を収集する。 | ① 全ての教員が、同じレベルで ICT を活用した授業ができるようになったか。<br>② 高学年の教科担任制の授業が円滑に続けることができたか。<br>③ 学校評価で教職員から自分の仕事ぶりに係る自己評価の肯定的回答が、80%以上であったか。<br>④ 「よい授業」アンケートの結果の平均値が昨年度（16.9）と同等以上であったか | ・今年度については、６年生で教科担任制を実施した。概ね計画通り実施することができた。学年全体で児童を把握できること、教材研究を効率的に行うことなどがメリットであると言える。<br>・学校評価において、教職員自身の働き方に係る項目についての肯定的な回答の割合は、80%以上であった。<br>・各教科等において、ICT（学習用タブレット、プロジェクター等）を活用した授業実践を推進している。ICT 専門部会で取り組んだ実践等について、教員に周知し、活用の幅を広げている。 | B | ・教科担任制ではメリット、デメリット両面があがってきた。教員の負担感を減らす効果的な実施方法を探求していく。<br>・教職員の働き方改革が進み、80%以上が以前よりも負担は減ったと感じている。引き続き対策を継続していく。<br>・ほぼ全教科等において、ICT を活用した授業実践を推進し、教員の活用能力は格段に上がった。新たな取り組みを積極的に取り入れ、今後も活用の幅を広げていく。 | ・教科担任の実施については関心をもっていたところなので、まずは１年間、初めての実施ということで、先生方からも色々な意見が出たと思う。学校としてより良いやり方を今後も探っていってほしい。<br>・先生方が様々な ICT 機器を活用していてすごいと思う。 |

# 令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 島 小学校 ）　　学校番号　０７３

【様式】

| | |
|---|---|
| 目指す学校像 | 児童の豊かな心を培い、夢や希望を育む学校　　教職員がもち味を生かし、授業や教育活動を創り出していく学校<br>家庭や地域社会と共に歩み、協働し合う開かれた学校 |

| | |
|---|---|
| 重点目標 | １ 学びを自律化し、情報端末を活用した個別最適な学習、探究的な学習を実現する<br>２ 安心・安全な学校に向け特別支援・相談体制を充実させ、豊かな人間関係を作ることができる学校を実現する<br>３ コミュニティ・スクールとして成長し、保護者・地域と連携した学校教育を実現する<br>４ 一人ひとりの教職員が力を発揮し、ライフステージにあった成長ができるよう、働き甲斐のある職場を作る |

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 | | | 実施日令和　年　月　日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 〈現状〉<br>○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均程度である。<br>○学力・学習の項目「進んで学習に取り組んでいる」（児童回答）の肯定的な回答の割合は９割程度である。<br>○学級規律が守られ児童がおおむね集中して学習に取り組めている。本校独自の「家庭学習のすすめ」が定着し、家庭と連携して積極的に学習に取り組める児童が増えている。<br>〈課題〉<br>○学年によって数人程度、集中力が維持できない児童が見られるため、個別指導や ICT の活用等、個に応じた指導法をさらに進めることが必要と考える。 | ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、 基礎基本の徹底 | ①国語、算数について、スタディサプリやドリルパークなどの学習への取組状況をスタディ・ログとして活用して学習相談を行い、児童が目標をもって学習できるようにする。<br>②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を分析するとともに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受け、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の読解力向上を図る。 | ① 日頃の授業の様子やまとめのテストの結果から、各教科の基礎・基本を習得できたか。<br>② 学校評価の児童の調査結果(進んで学習している)が９０％以上であったか。<br>③国や市の学力・学習状況調査の児童の調査結果が国や市の平均以上であったか。 | | | | |
| | | ・個別最適な学習や探究的な学習の充実 | ①各教員がタブレットを使った個別最適な学習や探究的な学習を目指して授業を行う。<br>②児童がオクリンクやムーブノート等を積極的に活用して自分の考えを表現できるようにする。 | ①１人１台端末の活用状況が昨年度以上であったか。<br>②探究的な学習の状況をみるアンケート調査（新たな指標）において、肯定的な回答が８０％以上であったか。 | | | | |
| 2 | 〈現状〉<br>○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、９２％である。<br>○「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで児童の肯定的な回答が９０％を超えている。<br>〈課題〉<br>○コロナ禍が児童に与えた影響を回復することが大切である。心と生活のアンケートの結果に対しての適切な対応が求められる。<br>○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが重要である。 | ・安心・安全な学校に向けた、児童一人ひとりへの細やかな特別支援・相談体制の充実 | ①教育相談体制を整え、いじめの防止や早期発見を組織的に取り組む。<br>②教育支援・相談に係る校内委員会でＩＣＴを活用することで、蓄積した情報をライフ・ログとして、児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 | ①学校評価の児童の調査結果(困ったときに相談できる先生がいる)が昨年度（９２％）以上であったか。<br>②学校自己評価における教育相談体制に係る保護者アンケートにおいても、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 | | | | |
| | | ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた学校行事の充実 | ①交通安全教室や避難訓練等を通して、児童に自らの安全を確保する技術を育成する。<br>②課題の解決策について議論する「島小安全会議」を児童委員会中心で開催する。その中で安全な生活の実現に向けた目標を児童自ら設定する。 | ①学校評価に係る児童アンケートの「以前より安全を考えて行動するようになった。」と回答する児童の割合が９０％以上となったか。<br>②「島小安全会議」を開催し、児童が主体となって安全な生活の実現に向けて目標を設定し、けがの件数が減少したか。 | | | | |
| 3 | 〈現状〉<br>○学校運営協議会において、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくという共通理解が図られている。<br>〈課題〉<br>○「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合は、５０％程度である。今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。 | ・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのＩＣＴ活用、教育活動公開 | ①本校 Web ページや学校だより等による学校の様子の発信や学校公開の実施等により、目指す児童の姿を広く家庭、地域と共有できるようにする。<br>②地域行事を積極的に児童に周知したり、授業等に地域人材を活用したりして、学校と地域との連携を強化する。 | ①全国学力・学習状況調査の生活に関する質問において、「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。<br>②同じく「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の肯定的な回答が８０％以上となったか。 | | | | |
| | | ・家庭や地域と協力体制を作り、児童の自律につながる継続的な取組に向けたプラン策定 | ①学習状況調査の結果分析等の客観的データを用い、児童の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るためのプランを策定する。<br>②学校運営協議会を年に３回開き、毎回参加者全員から意見をいただき、保護者・地域と連携を進める。 | ①学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの取組により、児童に自尊意識が育っている。」等、児童の自律について肯定的な回答が８０％以上となったか。<br>②学校自己評価に係るアンケートで、「学校、家庭、地域が協働し、児童の自律につながる取組が行われている。」と回答する割合が８０％以上となったか。 | | | | |
| 4 | 〈現状〉<br>○各教科等において、ICT（学習用タブレット、プロジェクター等）を活用した授業実践を推進している。ICT 専門部会で取り組んだ実践等について、教員に周知し、活用の幅を広げている。<br>○学校評価において、教職員自身の働き方に係る項目についての肯定的な回答の割合は、８０％以上である。<br>〈課題〉<br>○ＩＣＴの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。<br>○自分が担当しない教科について教材研究することや、よい授業のイメージを共有することが課題である。 | ・「さいたま市 GIGA スクール構想」を推進するためにエバンジェリスト等との打合せや研修会の充実<br>・教科担任制の実践及び研究 | ①「さいたま市 GIGA スクール構想」を推進するために、エバンジェリスト等と研修会や打合せを月に一回以上開催する。<br>②他校からよりよい教科担任制の情報を収集する。<br>③全国及び市の学習状況調査の問題を分析することにより、目指すべき児童の姿や探究学習のあり方についての共通理解を図り、教材研究等の効率化を実現する。 | ① 全ての教員が、同じレベルで ICT を活用した授業ができるようになったか。<br>② 高学年の教科担任制の授業により、授業の質の向上が図られたか。<br>③ 学校評価で教職員から自分の仕事ぶりに係る自己評価の肯定的回答が、９０％以上であったか。<br>④ 授業に関するアンケートにおいて、授業を肯定的に捉えた回答の平均値が８５％以上であったか。 | | | | |